

一切り出す側のメリットを伝え、業務切り出しをスムーズに行っていく

ホールディングスカンパニー



※イメージ写真

事業概要 : 総合物流事業
 従業員数 : 195人(平成30年12月現在)
 サポーター : 山本さん・仮名(職場上司)
 被支援者 : 30代男性(精神障害)
 勤続年数 : 1年6ヶ月(平成31年3月現在)
 業務内容 : 給料支払い業務、人事事務補助業務

支援内容	取組み	セルフチェックシート 業務切り出し説明会
	効果	体調・メンタル面の把握、業務切り出し

疲労が蓄積して休職したAさん
1日5時間・週4日勤務にて職場復帰

サポーターの山本さんの会社は、平成27年に多様な人材を積極的に受け入れていくという方針により、これまでの身体障害者に加えて、新たに精神障害者の採用も始めました。現在は障害のある社員が4名活躍しており、その中の1人がAさんです。

Aさんは学生時代、就職活動をきっかけに、うつ病を発症しました。その後、自分の障害を理解してもらい長く働きたいと考え、障害者枠で働くことを決意し、ハローワークのミニ面接会を経て平成29年9月に入社しました。

Aさんは、人事部の事務補助業務を任せられ順調に勤務していましたが、だんだんと増えていく業務に疲労が蓄積していき、入社4か月目に体調を崩して休職しました。そして、精神保健福祉士や登録している就労支援機関のカウンセリングを受けながら、1日5時間・週4日という時短勤務で職場復帰することになったので、山本さんは人事担当としてAさんのサポートを始めました。



※イメージ写真

養成講座に参加し、個性に合わせたサポートが必要なことを学ぶ

山本さんは、作業日報を兼ねた「セルフチェックシート」を使い、睡眠、食事、疲労、気分など、Aさんの体調やストレスの状況を確認していきました。「セルフチェックシート」はAさんに業務開始時と終了時に疲労や気分の状況を記載してもらい、精神保健福祉士や支援機関とも共有して、Aさんを多方面からサポートしていきました。

<実際のセルフチェックシート(抜粋)>

作業日報(セルフチェックシート)		出勤時の疲労度	5分
就業開始時	気分	就業開始時	30
就業終了時	気分	就業終了時	20
作業内容	終了後の疲労度	終了後の気分	20
作業内容	終了後の疲労度	終了後の気分	20

「セルフチェックシート」を使い始めたものの山本さんは、Aさんに安定して働いてもらうには、どのようにサポートしていけばいいのか不安がありました。そんな折にサポーター事業のを知り、早速養成講座を受講しました。養成講座では他社の就労職場の見学や参加者同士のディスカッションを通じて、長期的な就労につなげるためには、社員の個性に合わせたサポートが必要なことを学びました。そして、サポーター登録後の定期訪問の際に、サポーター支援員から、Aさんが入社してちょうど1年となるので、「目標設定シート」の作成を勧められました。

